

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究論 I		指導担当者名	常勤
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生	
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:
年間時間数	30時間	単位数	2単位	週時間数 1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。 ・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。 ・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	SUCCESS			
授業外学習の方法	教科書復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画前期	1	オリエンテーション	講師紹介1-1これからどう生きるのか(宿題として視聴)	
	2	就職活動の心構え身だしなみ	1-1宿題振り返り1-2一生でどのくらい稼げるのか	
	3	就職活動での身だしなみ	5-1~5-1(実践編)身だしなみ	
	4	就職活動の流れ	学校でのルールと大学生、高校生、専門学校生の違い	
	5	職業を知る	2-2職種と業種の違いが分かるように*志望動機は飛ばします	
	6	情報収集、企業研究、資料請求1	2-2(実践編)業界マップの理解	
	7	情報収集、企業研究、資料請求2	2-3業界ごとに必要な仕事内容を理解する	
	8	情報収集、企業研究、資料請求3	2-3(実践編)業界ごとに必要な仕事内容を理解する	
	9	自分自身を知る自分史の作成1	3-4から3-6-2・3-4自己PRのネタを探す	
	10	自分自身を知る自分史の作成2	3-4から3-6-2・3-4-1自己PRのネタを探す(経験)	
	11	自分自身を知る自分史の作成3	3-4から3-6-2・3-4-2自己PRのネタを探す(特性)	
	12	自分自身を知る自分史の作成4	3-4から3-6-2・3-5自己PRの骨格を作る	
	13	自分自身を知る自分史の作成5	3-4から3-6-2・3-5自己PRの骨格を作る(実践編)	
	14	期末試験(一般常識)	自己PRの確認は必須時間があれば一般常識など	
	15	期末試験(一般常識)	自己PRの確認は必須時間があれば一般常識など	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究論 I		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生		
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:	
年間時間数	30時間	単位数	2単位	週時間数	1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。 ・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。 ・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	SUCCESS				
授業外学習の方法	教科書復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	16	志望動機の作り方1	3-7業界、会社にあった動機作り		
	17	志望動機の作り方2	3-7(実践編)業界、会社にあった動機作り		
	18	制作書類1	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2エントリーシート		
	19	制作書類2	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2封筒の書き方、添え状		
	20	制作書類3	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2その他の書類、履歴書		
	21	制作書類4	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2履歴書の完成		
	22	企業訪問	5-1,5-2		
	23	就職試験のマナー1	5-2~5-3(実践編)入退室		
	24	就職試験のマナー2	5-2~5-3(実践編)面接試験対策1		
	25	就職試験のマナー3	5-2~5-3(実践編)面接試験対策2		
	26	筆記試験対策1	5-5,5-5(実践編)筆記試験について、種類や方法を知る		
	27	筆記試験対策2	特に小論文の書き方(内容は自己PRや志望動機をまとめる内容がよい)		
	28	筆記試験対策3	特に小論文の書き方(内容は自己PRや志望動機をまとめる内容がよい)		
	29	期末試験(履歴書)	履歴書提出		
30	期末試験(履歴書)	履歴書提出			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	音響学概論 I		指導担当者名	薄崇雄	
実務経験	有	コンサート業務・音響現場に50年以上従事、また舞台機構調整技能士検定委員に5年以上従事			
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科1年		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
年間時間数	60時間	単位数	4単位	週時間数	2時間
学習到達目標	<p>(前期) 音響の仕事を理解する。プロが使う音に慣れるオーケストラ等の大編成の音に親しむ人間の聴覚を理解する 3級舞台機構調整学科受験対策、演習</p> <p>(後期) 人間の聴覚と音響機器から出る音の融合を図る</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	テキスト:舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)				
授業外学習の方法					
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	どうしてこの学科を選んだかの質問		
	2	音響技術者の違い	レジュメ		
	3	検定試験の概要	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)		
	4	バイノーラルとステレオフォニック	楽器音再生		
	5	オーケストラ楽器のヒアリング	楽器音再生		
	6	学科試験問題演習、ヒアリング演習	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、楽器音再生		
	7	学科試験問題演習、ヒアリング演習	"		
	8	学科試験問題演習、ヒアリング演習	"		
	9	学科試験問題演習、ヒアリング演習	"		
	10	中間試験			
	11	3級受験直前学科演習	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)		
	12	3級受験判断等試験(ヒアリング)直前演習1	楽器音再生、舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)		
	13	3級受験判断等試験(ヒアリング)直前演習2	楽器音再生、舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)		
	14	本試験			
	15	試験結果答え合わせ			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	音響学概論 I		指導担当者名	薄崇雄	
実務経験	有	コンサート業務・音響現場に50年以上従事、また舞台機構調整技能士検定委員に5年以上従事			
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科1年		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
年間時間数	60時間	単位数	4単位	週時間数	2時間
学習到達目標	<p>(前期) 音響の仕事を理解する。プロが使う音に慣れるオーケストラ等の大編成の音に親しむ人間の聴覚を理解する 3級舞台機構調整学科受験対策、演習</p> <p>(後期) 人間の聴覚と音響機器から出る音の融合を図る</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	テキスト:舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)				
授業外学習の方法					
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	16	ミキシングエンジニアの役割	レジュメ		
	17	安全について、非常放送・火災警報器	事務室火災警報器、非常放送見学、舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)		
	18	音量、音質について	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生		
	19	楽器の発音構造	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生		
	20	人間の声の特性	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生		
	21	ホールの構造	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生		
	22	EQについて	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生		
	23	エフェクターについて(リバーブ)	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生		
	24	エフェクターについて(コンプレッサー)	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生		
	25	エフェクターについて(その他)	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生		
	26	ステレオ録音1	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)		
	27	圧縮～リニア～ハイレゾと音響心理1	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生		
	28	圧縮～リニア～ハイレゾと音響心理2	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生		
	29	期末試験			
30	テスト答え合わせ				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	サウンドレコーディング概論 I	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	音響ミュージック科1年
授業方法	講義: ○	演習:	実習: 実技:
年間時間数	30時間	単位数	2単位 週時間数 1時間
学習到達目標	<p>(前期) サウンドレコーディング技術認定試験に向けての問題集の勉強。プロの音とプロの機材を理解する。問題集の徹底的分析。模試を通しての自己分析</p> <p>(後期)サウンドレコーディング技術認定試験に向けての問題集の勉強。プロの音とプロの機材を理解する。問題集の徹底的分析。模試を通しての自己分析</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	サウンドレコーディング概論技術概論。サウンドレコーディング技術概論過去問題集		
授業外学習の方法	実際のスタジオでの機材を目で見て手で触って確認をする。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画前期	1	オリエンテーション	レコーディングを中心とした技術の理解と実際。
	2	音の性質	音の3要素。dBと音圧レベルの理解と計算方法。両耳効果とステレオ
	3	音響物理基礎1	音と音波
	4	音響物理基礎2	音に関する物理量
	5	音響物理基礎3	音の尺度
	6	電気音響基礎1	電気基礎
	7	電気音響基礎2	基本回路
	8	電気音響基礎3	オーディオ回路
	9	音響機器1	マイクの種類と作動原理
	10	音響機器2	コンソールの種類と機能
	11	音響機器3	記憶媒体の歴史1
	12	音響機器4	記憶媒体の歴史2
	13	模擬試験1	採点后フィードバック
	14	期末試験	採点后フィードバック
	15	振り返り	全体の振り返り
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	サウンドレコーディング概論 I	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	音響ミュージック科1年
授業方法	講義: ○	演習:	実習: 実技:
年間時間数	30時間	単位数	2単位 週時間数 1時間
学習到達目標	<p>(前期) サウンドレコーディング技術認定試験に向けての問題集の勉強。プロの音とプロの機材を理解する。問題集の徹底的分析。 模試を通しての自己分析 (後期)サウンドレコーディング技術認定試験に向けての問題集の勉強。プロの音とプロの機材を理解する。問題集の徹底的分析。 模試を通しての自己分析</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	サウンドレコーディング概論技術概論。サウンドレコーディング技術概論過去問題集		
授業外学習の方法	実際のスタジオでの機材を目で見て手で触って確認をする。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	16	録音技術1	マイク收音:方法と種類
	17	録音技術2	オーケストラの録音:クラシック音楽の録音の実際
	18	録音技術3	リズムトラックのレコーディング
	19	録音技術4	マルチ録音とトラックダウン/ミキシングダウン
	20	次世代音響技術1	デジタル音響処理基礎
	21	次世代音響技術2	デジタルによるマルチ再生
	22	次世代音響技術3	スピーカーの設置
	23	レジュメ提出	今までの内容の中で利害できなかった部分を抜擢しレジュメ作成
	24	次世代音響技術4	サラウンド技術の理解と実際
	25	音楽理論と楽器1	基本的な楽器に対する理解
	26	音楽理論と楽器2	クラシック楽器
	27	音楽理論と楽器3	ポップス用の楽器1
	28	音楽理論と楽器4	ポップス用の楽器2
	29	期末試験	ポップス用の楽器1
30	振り返り	全体の振り返り	
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	音楽分析概論	指導担当者名	今泉尊州
実務経験	有	ミュージシャンと楽曲製作経歴5年以上	
開講時期	通年	対象学科学年	音響ミュージック科1年
授業方法	講義: ○	演習:	実習: 実技:
年間時間数	90時間	単位数	6単位 週時間数 3時間
学習到達目標	音楽業界は様々な職業があって成り立っているということ、自分がやりたい職種を見つけそれを目指し何を学習すべきか自分でしっかり把握する。なりたい職種にプラスその周りでどんな仕事が行われているかを知る。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	筆記用具PC		
授業外学習の方法	プリントでの学習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画前期	1	楽典	楽譜
	2	楽典	オタマジャクシ
	3	楽典	ト音記号
	4	楽典	ヘ音記号
	5	楽典	音階
	6	楽典	音階
	7	楽典	コード
	8	楽典	コード進行
	9	楽典	コード進行
	10	楽典	復習
	11	楽典	復習
	12	楽典	復習
	13	楽典	復習
	14	楽典	期末試験
	15	楽典	振り返り
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	音楽分析概論		指導担当者名	今泉尊州	
実務経験	有	ミュージシャンと楽曲製作経歴5年以上			
開講時期	通年	対象学科学年	音響ミュージック科1年		
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	6単位	週時間数	3時間
学習到達目標	音楽業界は様々な職業があって成り立っているということ、自分がやりたい職種を見つけそれを目指し何を学習すべきか自分でしっかり把握する。なりたい職種にプラスその周りでどんな仕事が行われているかを知る。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	筆記用具PC				
授業外学習の方法	プリントでの学習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画後期	16	楽典	振り返り		
	17	楽典	マイナー		
	18	楽典	メジャー		
	19	楽典	コードの構成		
	20	楽典	テンション		
	21	楽典	テンション		
	22	楽典	演奏上の注意		
	23	楽典	パッシングコード		
	24	楽典	復習		
	25	楽典	復習		
	26	楽典	復習		
	27	楽典	復習		
	28	楽典	復習		
	29	楽典	期末試験		
30	楽典	振り返り			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究論Ⅱ		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	全学科2年生		
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:	
年間時間数	60時間	単位数	4単位	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動での面接、書類突破する事を目標とする。 ・前期は、一般常識を強化 ・後期は、個別指導を強化 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	SUCCESS				
授業外学習の方法	教科書復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画前期	1	一般常識1	国語1漢字の読み書き		
	2	一般常識2	国語2対義語・類義語3同音異義語・同訓異字		
	3	一般常識3	国語4四字熟語5故事成語・ことわざ・慣用句		
	4	一般常識4	社会1日本史2世界史		
	5	一般常識5	社会3日本の地理4世界の地理		
	6	一般常識6	社会5民主政治6経済		
	7	小テスト	中学レベル小テスト		
	8	一般常識7	英語1英単語・英熟語2英文法13英文法2		
	9	一般常識8	英語4英文法35会話表現・慣用表現		
	10	一般常識9	数学1重要基礎12重要基礎23式と計算		
	11	一般常識10	数学4方程式と不等式5図形と面積、体積6場合の数と確率		
	12	一般常識11	理科1物理・化学2生物・地学		
	13	一般常識12	文化・芸術・雑学		
	14	期末テスト	一般常識総ざらい		
	15	期末テスト	一般常識総ざらい		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究論Ⅱ		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	全学科2年生		
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:	
年間時間数	60時間	単位数	4単位	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動での面接、書類突破する事を目標とする。 ・前期は、一般常識を強化 ・後期は、個別指導を強化 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	SUCCESS				
授業外学習の方法	教科書復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	16	志望動機の作り方1	3-7業界、会社にあった動機作り		
	17	志望動機の作り方2	3-7(実践編)業界、会社にあった動機作り		
	18	制作書類1	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2エントリーシート		
	19	制作書類2	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2封筒の書き方、添え状		
	20	制作書類3	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2その他の書類、履歴書		
	21	制作書類4	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2履歴書の完成		
	22	就職試験のマナー1	5-2~5-3(実践編)入退室		
	23	就職試験のマナー2	5-2~5-3(実践編)面接試験対策1		
	24	就職試験のマナー3	5-2~5-3(実践編)面接試験対策2		
	25	個別指導1	書類添削、面接指導		
	26	個別指導2	書類添削、面接指導		
	27	個別指導3	書類添削、面接指導		
	28	個別指導4	書類添削、面接指導		
	29	個別指導5	書類添削、面接指導		
30	個別指導5	書類添削、面接指導			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	サウンドレコーディング概論Ⅱ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科2年
授業方法	講義: ○	演習:	実習: 実技:
年間時間数	60時間	単位数	4単位 週時間数 2時間
学習到達目標	<p>(前期) サウンドレコーディング技術認定試験に向けての問題集の勉強。プロの音とプロの機材を理解する。問題集の徹底的分析。模試を通しての自己分析</p> <p>(後期) サウンドレコーディング技術認定試験に向けての問題集の勉強。プロの音とプロの機材を理解する。問題集の徹底的分析。模試を通しての自己分析</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	サウンドレコーディング概論技術概論。サウンドレコーディング技術概論過去問題集		
授業外学習の方法	実際のスタジオでの機材を目で見て手で触って確認をする。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画前期	1	オリエンテーション	レコーディングを中心とした技術の理解と実際。
	2	音の性質	音の3要素。dBと音圧レベルの理解と計算方法。両耳効果とステレオ
	3	音響物理基礎1	音と音波
	4	音響物理基礎2	音に関する物理量
	5	音響物理基礎3	音の尺度
	6	電気音響基礎1	電気基礎
	7	電気音響基礎2	基本回路
	8	電気音響基礎3	オーディオ回路
	9	音響機器1	マイクの種類と作動原理
	10	音響機器2	コンソールの種類と機能
	11	音響機器3	記憶媒体の歴史1
	12	音響機器4	記憶媒体の歴史2
	13	模擬試験1	採点后フィードバック
	14	期末試験	採点后フィードバック
	15	振り返り	
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	サウンドレコーディング概論Ⅱ		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科2年		
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:	
年間時間数	60時間	単位数	4単位	週時間数	2時間
学習到達目標	<p>(前期) サウンドレコーディング技術認定試験に向けての問題集の勉強。プロの音とプロの機材を理解する。問題集の徹底的分析。模試を通しての自己分析</p> <p>(後期) サウンドレコーディング技術認定試験に向けての問題集の勉強。プロの音とプロの機材を理解する。問題集の徹底的分析。模試を通しての自己分析</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	サウンドレコーディング概論技術概論。サウンドレコーディング技術概論過去問題集				
授業外学習の方法	実際のスタジオでの機材を目で見て手で触って確認をする。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画後期	16	録音技術1	マイク收音:方法と種類		
	17	録音技術2	オーケストラの録音:クラシック音楽の録音の実際		
	18	録音技術3	リズムトラックのレコーディング		
	19	録音技術4	マルチ録音とトラックダウン/ミキシングダウン		
	20	次世代音響技術1	デジタル音響処理基礎		
	21	次世代音響技術2	デジタルによるマルチ再生		
	22	次世代音響技術3	スピーカーの設置		
	23	レジュメ提出	今までの内容の中で利害できなかった部分を抜擢しレジュメ作成		
	24	次世代音響技術4	サラウンド技術の理解と実際		
	25	音楽理論と楽器1	基本的な楽器に対する理解		
	26	音楽理論と楽器2	クラシック楽器		
	27	音楽理論と楽器3	ポップス用の楽器1		
	28	音楽理論と楽器4	ポップス用の楽器2		
	29	期末試験	ポップス用の楽器1		
30	振り返り				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	音響学概論Ⅱ		指導担当者名	薄崇雄	
実務経験	有	コンサート業務・音響現場に50年以上従事、また舞台機構調整技能士検定委員に5年以上従事			
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科2年		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
年間時間数	30時間	単位数	2単位	週時間数	1時間
学習到達目標	<p>(前期) 音響の仕事を理解する。プロが使う音に慣れるオーケストラ等の大編成の音に親しむ人間の聴覚を理解する 3級舞台機構調整学科受験対策、演習</p> <p>(後期) 人間の聴覚と音響機器から出る音の融合を図る</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	テキスト:舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)				
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画前期	1	舞台技術者の音の聴き方	レジュメ		
	2	音の様々な現象	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)		
	3	ミキシング(エフェクター)	"		
	4	ミキシング(エフェクター)	"		
	5	マイクの特徴	"		
	6	ワンポイント録音方式	"		
	7	舞台用語	"		
	8	舞台構造、舞台図面	"		
	9	劇場の音響	"		
	10	音響プランの作成Ⅰ	セッティング図に沿った作成仕方		
	11	音響プランの作成Ⅱ	セッティング図に沿った作成仕方		
	12	作成プラン検証1	プラン通りの仕込み実施		
	13	作成プラン検証2	プラン通りの仕込み実施		
	14	本試験			
	15	試験結果答え合わせ			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	音響学概論Ⅱ		指導担当者名	薄崇雄	
実務経験	有	コンサート業務・音響現場に50年以上従事、また舞台機構調整技能士検定委員に5年以上従事			
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科2年		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
年間時間数	30時間	単位数	2単位	週時間数	1時間
学習到達目標	<p>(前期) 音響の仕事を理解する。プロが使う音に慣れるオーケストラ等の大編成の音に親しむ人間の聴覚を理解する 3級舞台機構調整学科受験対策、演習</p> <p>(後期) 人間の聴覚と音響機器から出る音の融合を図る</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	テキスト:舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)				
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	16	楽器の基礎知識	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)		
	17	EQの知識	〃		
	18	エフェクターの知識	〃		
	19	音響測定と聴感	〃		
	20	催し物の種類と音響	レジュメ		
	21	空間の知識	〃		
	22	ホール舞台図面	実際のホールの図面をダウンロード		
	23	音響プラン制作基礎	舞台技術の共通基礎		
	24	音響プラン制作	検証作業		
	25	後期試験			
	26	実際の催し物の音響プラン制作Ⅰ	セッティング図に沿った内容でできているのかを検証		
	27	実際の催し物の音響プラン制作Ⅱ	セッティング図に沿った内容でできているのかを検証		
	28	圧縮～リニア～ハイレゾと音響心理2	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生		
	29	期末試験			
30	テスト答え合わせ				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバー演習 I	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	60時間	単位数	4単位 週時間数 2時間
学習到達目標	<p>・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。</p> <p>・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A, B, Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	ゼミごとに異なる		
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。
	7	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。
	8	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。
	9	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。
	10	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。
	11	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。
	12	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。
	13	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り
	14	期末試験	期末試験
	15	期末試験	期末試験
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバー演習 I		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生		
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:	
年間時間数	60時間	単位数	4単位	週時間数	2時間
学習到達目標	<p>・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。</p> <p>・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	ゼミごとに異なる				
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	16	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。		
	17	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。		
	18	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。		
	19	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。		
	20	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。		
	21	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。		
	22	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。		
	23	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。		
	24	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。		
	25	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。		
	26	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。		
	27	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。		
	28	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り		
	29	期末試験	期末試験		
30	期末試験	期末試験			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	機材メンテナンス演習 I		指導担当者名	株式会社リヴァーズウェイ	
実務経験	有	ライブハウス、楽器販売を行っている株式会社リヴァーズウェイとの契約により、実務経験が5年以上の社員が担当			
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科1年		
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	6単位	週時間数	3時間
学習到達目標	音響ミキサーやステージ機材、楽器の構造を知り分解構成してみる事で知識を深める。また、自らメンテナンスを行う事で機材の取り扱い方を知る。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	学校内音響備品等				
授業外学習の方法	音楽・音響の本を読んで自ら知識・技術を学んでいく事				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画前期	1	オリエンテーション	オリエンテーション		
	2	音響機材の構造	音響ミキサーやアンプ、スピーカーの構造について		
	3	音響機材のメンテナンス	端子等の役割・メンテナンスの方法		
	4	マイク1	マイクの種類、構造について(ダイナミックマイク)		
	5	マイク2	マイクの種類、構造について(コンデンサーマイク)		
	6	ケーブル	各種ケーブルの違いやメンテナンス		
	7	楽器の構造1	楽器の構造		
	8	楽器の構造2	ピックアップ		
	9	楽器の構造3	アコースティック		
	10	楽器アンプ1	ギターアンプの取り扱い方法		
	11	楽器アンプ2	ベースアンプの取り扱い方法		
	12	舞台機構調整3級試験の復習1	舞台機構調整3級、筆記・実技試験の復習1		
	13	舞台機構調整3級試験の復習2	舞台機構調整3級、筆記・実技試験の復習2		
	14	期末試験			
	15	振り返り			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	機材メンテナンス演習 I		指導担当者名	株式会社リヴァーズウェイ	
実務経験	有	ライブハウス、楽器販売を行っている株式会社リヴァーズウェイとの契約により、実務経験が5年以上の社員が担当			
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科1年		
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	6単位	週時間数	3時間
学習到達目標	音響ミキサーやステージ機材、楽器の構造を知り分解構成してみる事で知識を深める。また、自らメンテナンスを行う事で機材の取り扱い方を知る。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	学校内音響備品等				
授業外学習の方法	音楽・音響の本を読んで自ら知識・技術を学んでいく事				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	16	オリエンテーション	オリエンテーション		
	17	音響機材の構造	音響ミキサーやアンプ、スピーカーの構造について		
	18	音響機材のメンテナンス	端子等の役割・メンテナンスの方法		
	19	マイク1	マイクの種類、構造について(ダイナミックマイク)		
	20	マイク2	マイクの種類、構造について(コンデンサーマイク)		
	21	ケーブル	各種ケーブルの違いやメンテナンス		
	22	楽器の構造1	楽器の構造		
	23	楽器の構造2	ピックアップ		
	24	楽器の構造3	アコースティック		
	25	楽器アンプ1	ギターアンプの取り扱い方法		
	26	楽器アンプ2	ベースアンプの取り扱い方法		
	27	舞台機構調整3級試験の復習1	舞台機構調整3級、筆記・実技試験の復習1		
	28	舞台機構調整3級試験の復習2	舞台機構調整3級、筆記・実技試験の復習2		
	29	期末試験			
30	振り返り				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバー演習Ⅱ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 2年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	60時間	単位数	4単位 週時間数 2時間
学習到達目標	<p>・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。</p> <p>・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	ゼミごとに異なる		
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。
	7	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。
	8	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。
	9	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。
	10	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。
	11	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。
	12	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。
	13	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り
	14	期末試験	期末試験
	15	期末試験	期末試験
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバー演習Ⅱ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 2年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	60時間	単位数	4単位 週時間数 2時間
学習到達目標	<p>・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。</p> <p>・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	ゼミごとに異なる		
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画後期	16	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	17	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	18	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	19	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	20	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
	21	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。
	22	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。
	23	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。
	24	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。
	25	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。
	26	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。
	27	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。
	28	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り
	29	期末試験	期末試験
30	期末試験	期末試験	
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	デジタル音源制作演習		指導担当者名	今泉尊州	
実務経験	有	ミュージシャンと楽曲製作経歴5年以上			
開講時期	通年	対象学科学年	音響ミュージック科2年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	6単位	週時間数	3時間
学習到達目標	作曲や音響機器など幅広く使用し、音楽を多角的にみる力をつける				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	楽器音響機材照明機材				
授業外学習の方法	楽譜と楽器を使用しての学習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画前期	1	作曲	曲を作ることは		
	2	1'30"	ワンコーラスの曲を作る		
	3	リズム隊	リズム隊の重要性和有用性		
	4	コード	コードの進行の効果		
	5	ベース	ベースの重要性		
	6	メロディ	メロディの音楽理論		
	7	機材	音響卓の構造		
	8	機材	音の流れ		
	9	機材	AUX		
	10	機材	スピーカーの構造		
	11	機材	アンプ		
	12	機材	インピーダンスの理解と実際の応用		
	13	テスト対策	レファレンスの作品と比較		
	14	前期期末試験	録音操作を行い、ポイントを押さえているかで評価		
	15	試験内容をみんなとヒヤリング			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	デジタル音源制作演習	指導担当者名	今泉尊州
実務経験	有	ミュージシャンと楽曲製作経歴5年以上	
開講時期	通年	対象学科学年	音響ミュージック科2年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	90時間	単位数	6単位 週時間数 3時間
学習到達目標	作曲や音響機器など幅広く使用し、音楽を多角的にみる力をつける		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	楽器音響機材照明機材		
授業外学習の方法	楽譜と楽器を使用しての学習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画後期	16	照明機材	照明機材の結線方法
	17	照明機材	DMX
	18	照明機材	配色
	19	照明機材	光の当て方
	20	照明機材	校内ライブでの配線を考える
	21	録音	広い部屋での録音
	22	録音	アンビエントマイク
	23	録音	マイクの指向性
	24	配信機材	配信に必要な機材
	25	配信機材	ソフトウェア
	26	配信機材	カメラと三脚
	27	配信機材1	スイッチャー1
	28	配信機材2	スイッチャー2
	29	前期期末試験	録音段取りをテストする
30	仕上げ作品リスニング		
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	機材メンテナンス演習Ⅱ		指導担当者名	株式会社リヴァーズウェイ	
実務経験	有	ライブハウス、楽器販売を行っている株式会社リヴァーズウェイとの契約により、実務経験が5年以上の社員が担当			
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科2年		
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	6単位	週時間数	3時間
学習到達目標	音響ミキサーやステージ機材、楽器の構造を知り分解構成してみる事で知識を深める。また、自らメンテナンスを行う事で機材の取り扱い方を知る。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	学校内音響備品等				
授業外学習の方法	音楽・音響の本を読んで自ら知識・技術を学んでいく事				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画前期	1	オリエンテーション	オリエンテーション		
	2	音響機材の構造	音響ミキサーやアンプ、スピーカーの構造について		
	3	音響機材のメンテナンス	端子等の役割・メンテナンスの方法		
	4	マイク1	マイクの種類、構造について(ダイナミックマイク)		
	5	マイク2	マイクの種類、構造について(コンデンサーマイク)		
	6	ケーブル	各種ケーブルの違いやメンテナンス		
	7	楽器の構造1	楽器の構造		
	8	楽器の構造2	ピックアップ		
	9	楽器の構造3	アコースティック		
	10	楽器アンプ1	ギターアンプの取り扱い方法		
	11	楽器アンプ2	ベースアンプの取り扱い方法		
	12	舞台機構調整3級試験の復習1	舞台機構調整3級、筆記・実技試験の復習1		
	13	舞台機構調整3級試験の復習2	舞台機構調整3級、筆記・実技試験の復習2		
	14	期末試験			
	15	振り返り			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	機材メンテナンス演習Ⅱ		指導担当者名	株式会社リヴァーズウェイ	
実務経験	有	ライブハウス、楽器販売を行っている株式会社リヴァーズウェイとの契約により、実務経験が5年以上の社員が担当			
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科2年		
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	6単位	週時間数	3時間
学習到達目標	音響ミキサーやステージ機材、楽器の構造を知り分解構成してみる事で知識を深める。また、自らメンテナンスを行う事で機材の取り扱い方を知る。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	学校内音響備品等				
授業外学習の方法	音楽・音響の本を読んで自ら知識・技術を学んでいく事				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	16	オリエンテーション	オリエンテーション		
	17	音響機材の構造	音響ミキサーやアンプ、スピーカーの構造について		
	18	音響機材のメンテナンス	端子等の役割・メンテナンスの方法		
	19	マイク1	マイクの種類、構造について(ダイナミックマイク)		
	20	マイク2	マイクの種類、構造について(コンデンサーマイク)		
	21	ケーブル	各種ケーブルの違いやメンテナンス		
	22	楽器の構造1	楽器の構造		
	23	楽器の構造2	ピックアップ		
	24	楽器の構造3	アコースティック		
	25	楽器アンプ1	ギターアンプの取り扱い方法		
	26	楽器アンプ2	ベースアンプの取り扱い方法		
	27	舞台機構調整3級試験の復習1	舞台機構調整3級、筆記・実技試験の復習1		
	28	舞台機構調整3級試験の復習2	舞台機構調整3級、筆記・実技試験の復習2		
	29	期末試験			
30	振り返り				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	録音実習 I		指導担当者名	安藤圭太	
実務経験	有	レコーディングスタジオ勤務、レコーディング・ミックス業務に15年間以上従事した経歴			
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科1年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	ProToolsを用いた録音方法の基礎を習得する				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	ProTools				
授業外学習の方法					
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画前期	1	面談			
	2	マイクの種類	ダイナミックマイクの使い方を知る		
	3	マイクの種類	コンデンサーマイクの使い方を知る		
	4	ドラム録音	マイキングを知る		
	5	ドラム録音	音の加工仕方を身に付ける		
	6	ギターベース録音	マイキングを知る		
	7	ギターベース録音	音の加工仕方を身に付ける		
	8	カホン録音	マイキングを知る		
	9	カホン録音	音の加工仕方を身に付ける		
	10	ピアノ録音	マイキングを知る		
	11	ピアノ録音	音の加工仕方を身に付ける		
	12	テスト対策	前期の復習		
	13	テスト対策	レファレンスの作品と比較		
	14	前期期末試験	録音操作を行い、ポイントを押さえているかで評価		
	15	試験内容をみんなとヒヤリング			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	録音実習 I	指導担当者名	安藤圭太
実務経験	有	レコーディングスタジオ勤務、レコーディング・ミックス業務に15年間以上従事した経歴	
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科1年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	90時間	単位数	3単位 週時間数 3時間
学習到達目標	ProToolsを用いた録音方法の基礎を習得する		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	ProTools		
授業外学習の方法			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画後期	16	前期の振替	
	17	カラオケにボーカル録音1	ボーカルの録音の仕方をする
	18	カラオケにボーカル録音2	ボーカルの音色調整とコンプをかけてみる
	19	ピアノにボーカル録音1	ピアノの録音の仕方をする
	20	ピアノにボーカル録音2	ピアノの音色調整とコンプをかけてみる
	21	3ピースバンド録音の企画立案	曲目決め、スケジュール調整
	22	3ピースバンド録音1	ドラム録音
	23	3ピースバンド録音2	ベース録音
	24	3ピースバンド録音3	ギター録音
	25	仮ミックス	ミキシングの仕方を知る
	26	ボーカル録音	バンドボーカルの録音の仕方をする
	27	全体ミックス1	バンドミックスの仕方を知る1
	28	全体ミックス2	バンドミックスの仕方を知る2
	29	前期期末試験	録音段取りをテストする
30	仕上げ作品リスニング		
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	音響・舞台・照明総合実習 I		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科1年		
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	<p>イベントを企画運営するために必要なテーマの立て方やアイデアの出し方、プレスト、大量のアイデアを分類する。アクティブラーニングを主体とした学びを重視する。また実際にアイデアを出し校内ライブなどで反映、どのような効果があったかをみる。また将来の目標設定を個々で設定できるようにする。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	PC音響機材照明機材ペンノートタブレットPC映像配信機材一式				
授業外学習の方法	プリントによる学習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画前期	1	オリエンテーション	この授業の趣旨・自己紹介		
	2	就職目標(なりたいセクション)及び音楽の理解	マインドマップの作成・好きな音楽と嫌いな音楽の理由		
	3	業界理解	現状の業界に求められる人材とはなにか		
	4	クリエイティブ志向を育てるメモの取り方	メモの取り方の資料を読み実践ノート・ペンタブレットPC・PC		
	5	制作の裏側・逆算力	動画・PCノート・ペン→まとめたものを発表		
	6	校内ライブの足りない部分・次回テーマ決め	付箋・ペン・紙		
	7	セクション・TODO出し	紙・ペン・ノート付箋・模造紙・PC		
	8	校内ライブ準備①	制作バック・ノート・PC		
	9	校内ライブ準備②スタッフミーティング	全体の確認		
	10	校内ライブの反省会	反省点・改善点・良かった点次回テーマ決め		
	11	実際のプロとの違い	どのような段取りをするか		
	12	企画書の立て方1	ペライチ企画タイトル・テーマ・意図・演出内容		
	13	企画書の立て方2	ペライチ企画タイトル・テーマ・意図・演出内容		
	14	期末試験			
	15	振り返り			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	音響・舞台・照明総合実習 I		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科1年		
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	<p>イベントを企画運営するために必要なテーマの立て方やアイデアの出し方、プレスト、大量のアイデアを分類する。アクティブラーニングを主体とした学びを重視する。また実際にアイデアを出し校内ライブなどで反映、どのような効果があったかをみる。また将来の目標設定を個々で設定できるようにする。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	PC音響機材照明機材ペンノートタブレットPC映像配信機材一式				
授業外学習の方法	プリントによる学習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	16	後期個人目標設定	修了・卒業公演までに自分が何をやるべきか目標設定PC・ノート・ペン		
	17	イベント業界に必要な映像知識	映像の最低限知らなくては行けない知識		
	18	イベント企画を立てる	郡山に貢献できる音楽とは何か追及するPC・ノート・ペ		
	19	プレゼンの仕方	プレゼンとは何のためにするかを学ぶPC・ノート・ペン		
	20	課題プレゼン	プレゼンPC・ノート・ペン・プロジェクタ		
	21	企画内容の実現化	企画内容が実際にできるものなのかを検討・レポート		
	22	予算の立て方	レポートをもとに予算とはどのように考えられているのかを学ぶPC・ノート・ペン		
	23	校内ライブ・イベントライブの準備①	プレゼンPC・ノート・ペン・プロジェクター		
	24	校内ライブ・イベントライブの準備②	プレゼンPC・ノート・ペン・プロジェクタ		
	25	イベント考察	ペン・付箋・ノート		
	26	業界知識	イベント業に必要な知識の補足		
	27	チーム形成1	コミュニケーションの取り方セクション・プレゼンチーム作り		
	28	チーム形成2	コミュニケーションの取り方セクション・プレゼンチーム作り		
	29	期末試験			
30	振り返り				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	音響実習 I		指導担当者名	薄崇雄	
実務経験	有	コンサート業務・音響現場に50年以上従事、また舞台機構調整技能士検定委員に5年以上従事			
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科1年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	プロフェッショナルな音、音響機材に慣れる 舞台機構調整技能士試験受験準備				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	テキスト:舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、検定用音響機材、楽器音等の音源				
授業外学習の方法	マイクケーブル、マイクスタンド等の音響機材の扱いに慣れる。オーケストラ等大編成のTV音楽番組を観賞する。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画前期	1	プロの音に慣れる	モニタースピーカー、CD		
	2	ミキシングコンソールの構造	分解用アナログ調整卓		
	3	ケーブル・コネクタ、スタンドの種類	該当ケーブル、コネクタ		
	4	ミキサーの操作	アナログ、デジタル調整卓		
	5	製作等作業試験の実習(問題読み合わせ)	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)		
	6	製作等作業試験の実習	マイク、マイクケーブル、スタンド、PAシステム		
	7	製作等作業試験の実習	マイク、マイクケーブル、スタンド、PAシステム		
	8	判断等試験、製作等作業試験の実習	モニタースピーカー、CD		
	9	判断等試験、製作等作業試験の実習	モニタースピーカー、CD		
	10	ヒアリング試験	モニタースピーカー、CD		
	11	ヒアリングのフィードバック			
	12	ヒアリングのフィードバック			
	13	ヒアリングのフィードバック	モニタースピーカー、CD、マイク、マイクケーブル、スタンド、PAシステム		
	14	本試験	モニタースピーカー、CD、マイク、マイクケーブル、スタンド、PAシステム		
	15	前期の振り返り			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	音響実習 I		指導担当者名	薄崇雄	
実務経験	有	コンサート業務・音響現場に50年以上従事、また舞台機構調整技能士検定委員に5年以上従事			
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科1年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	プロフェッショナルな音、音響機材に慣れる 舞台機構調整技能士試験受験準備				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	テキスト:舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、検定用音響機材、楽器音等の音源				
授業外学習の方法	マイクケーブル、マイクスタンド等の音響機材の扱いに慣れる。オーケストラ等大編成のTV音楽番組を観賞する。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	16	編集ソフトの操作、構成台本製作	PC		
	17	台本製作、素材加工	PC		
	18	ナレーション、SE、音楽のミキシング(実機)	台本、再生機材一式		
	19	ナレーション、SE、音楽のミキシング(実機)	台本、再生機材一式		
	20	ナレーション、SE、音楽のミキシング(実機)	台本、再生機材一式		
	21	編集ソフトへの音源入れ込み	台本、PC、再生機材一式		
	22	ナレーション、SE、音楽のミキシング(PC)	台本、PC、再生機材一式		
	23	PCソフト編集(個人)	PC、再生機材一式		
	24	ソフト編集物のチェック1	PC、再生機材一式		
	25	ソフト編集物のチェック2	PCPCソフト編集、マスタリング、CD製作		
	26	PCソフト編集、マスタリング、CD製作1	提出の企画にあわせての音源制作		
	27	PCソフト編集、マスタリング、CD製作2	提出の企画にあわせての音源制作		
	28	PCソフト編集、マスタリング、CD製作3	提出の企画にあわせての音源制作		
29	期末試験	CD再生機材一式			
30	振り返り	評価シート提出			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	実演実習 I		指導担当者名	株式会社リヴァーズウェイ	
実務経験	有	ライブハウス、楽器販売を行っている株式会社リヴァーズウェイとの契約により、実務経験が5年以上の社員が担当			
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科1年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	全ての楽器に必要なリズムとその感覚を学習する。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	楽器				
授業外学習の方法	楽譜と楽器を使用しての学習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画前期	1	セッションのルールと知識	授業のオリエンテーション		
	2	12小節のブルース進行	キーを変えコードと小説の感覚も鍛える。		
	3	8ビート、16ビート。	リズムを変えて。ポップスやロックも取り入れる。		
	4	裏のリズム。ディスコビート。	IDM系リズムと曲の学習。		
	5	12/8ビート。シャッフル。	シャッフルの感覚と曲の学習		
	6	ビートシフト。感覚トレーニング。	グループを出すための感覚の習得。		
	7	バウンス。ファンク。	スタンダードや流行の曲を取り入れてバウンスを学習。		
	8	ハーフタイムシャッフル。	ゆっくりから高速まで体と感覚を一致させる事を目標に。		
	9	ボサノバ。レゲエ。	ポップスやロックに定番アレンジのリズム学習。		
	10	サンバ。	速い体の動きを学習する。裏と1、4拍を感じる。		
	11	ジャズ2ビート、4ビート。	ジャズスタンダードを学習する。		
	12	奇数ビート1	奇数曲と感覚を学習する。		
	13	奇数ビート2	奇数曲と感覚を学習する。		
	14	期末試験			
	15	振り返り			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	実演実習 I		指導担当者名	株式会社リヴァーズウェイ	
実務経験	有	ライブハウス、楽器販売を行っている株式会社リヴァーズウェイとの契約により、実務経験が5年以上の社員が担当			
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科1年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	全ての楽器に必要なリズムとその感覚を学習する。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	楽器				
授業外学習の方法	楽譜と楽器を使用しての学習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画後期	16	難易度の高い曲の完成。	課題曲の分析		
	17	難易度の高い曲の完成。	リズムを覚える		
	18	難易度の高い曲の完成。	コード進行を覚える		
	19	難易度の高い曲の完成。	メロディを覚える		
	20	難易度の高い曲の完成。	アドリブをみんなで回す		
	21	難易度の高い曲の完成。	合奏		
	22	難易度の高い曲の完成。	進行を覚える		
	23	難易度の高い曲の完成。	リズムを覚える		
	24	難易度の高い曲の完成。	コード進行を覚える		
	25	難易度の高い曲の完成。	メロディを覚える		
	26	難易度の高い曲の完成。	アドリブをみんなで回す		
	27	難易度の高い曲の完成。	合奏		
	28	難易度の高い曲の完成。	合奏		
29	期末試験				
30	振り返り				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	作曲実習		指導担当者名	今泉尊州	
実務経験	有	ミュージシャンと楽曲製作経歴5年以上			
開講時期	通年	対象学科学年	音響ミュージック科1年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	作曲や音響機器など幅広く使用し、音楽を多角的にみる力をつける				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	楽器音響機材照明機材				
授業外学習の方法	楽譜と楽器を使用しての学習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画前期	1	作曲	曲を作ることは		
	2	1'30"	ワンコーラスの曲を作る		
	3	リズム隊	リズム隊の重要性和有用性		
	4	コード	コードの進行の効果		
	5	ベース	ベースの重要性		
	6	メロディ	メロディの音楽理論		
	7	機材	音響卓の構造		
	8	機材	音の流れ		
	9	機材	AUX		
	10	機材	スピーカーの構造		
	11	機材	アンプ		
	12	機材	インピーダンスの理解と実際の応用1		
	13	機材	インピーダンスの理解と実際の応用2		
	14	期末試験			
	15	振り返り			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	作曲実習		指導担当者名	今泉尊州	
実務経験	有	ミュージシャンと楽曲製作経歴5年以上			
開講時期	通年	対象学科学年	音響ミュージック科1年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	作曲や音響機器など幅広く使用し、音楽を多角的にみる力をつける				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	楽器音響機材照明機材				
授業外学習の方法	楽譜と楽器を使用しての学習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	16	照明機材	照明機材の結線方法		
	17	照明機材	DMX		
	18	照明機材	配色		
	19	照明機材	光の当て方		
	20	照明機材	校内ライブでの配線を考える		
	21	録音	広い部屋での録音		
	22	録音	アンビエントマイク		
	23	録音	マイクの指向性		
	24	配信機材	配信に必要な機材		
	25	配信機材	ソフトウェア		
	26	配信機材	カメラと三脚		
	27	配信機材	スイッチャー		
	28	配信機材	パソコン設定		
	29	テスト	プリントによるテスト		
30	振り返り				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	修了制作実習	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	後期	対象学科学年	全学科 1年生
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	180時間	単位数	6単位 週時間数
学習到達目標	・1年間の集大成として学んだこと活かしデジタルコンテンツを制作し、プレゼンテーションをする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	デジタルコンテンツ制作に必要な物を各自用意。		
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	作品制作①	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる
	2	作品制作②	個別添削を行いながら制作を進めていく
	3	作品制作③	中間発表
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施
	5	発表を受けての修正と展示準備	オンライン展示およびオンサイト展示を実施
	6	卒業・修了制作展	展示終了後は、アーカイブ化し、デジタル保存をする
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	音響・舞台・照明総合実習Ⅱ		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科2年		
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	<p>イベントを企画運営するために必要なテーマの立て方やアイデアの出し方、プレスト、大量のアイデアを分類する。アクティブラーニングを主体とした学びを重視する。また実際にアイデアを出し校内ライブなどで反映、どのような効果があったかをみる。また将来の目標設定を個々で設定できるようにする。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	PC音響機材照明機材ペンノートタブレットPC映像配信機材一式				
授業外学習の方法	プリントによる学習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画前期	1	オリエンテーション	この授業の趣旨・自己紹介		
	2	就職目標(なりたいセクション)及び音楽の理解	マインドマップの作成・好きな音楽と嫌いな音楽の理由		
	3	業界理解	現状の業界に求められる人材とはなにか		
	4	クリエイティブ志向を育てるメモの取り方	メモの取り方の資料を読み実践ノート・ペンタブレットPC・PC		
	5	制作の裏側・逆算力	動画・PCノート・ペン→まとめたものを発表		
	6	校内ライブの足りない部分・次回テーマ決め	付箋・ペン・紙		
	7	セクション・TODO出し	紙・ペン・ノート付箋・模造紙・PC		
	8	校内ライブ準備①	制作バック・ノート・PC		
	9	校内ライブ準備②スタッフミーティング	全体の確認		
	10	校内ライブの反省会	反省点・改善点・良かった点次回テーマ決め		
	11	実際のプロとの違い	どのような段取りをするか		
	12	企画書の立て方1	ペライチ企画タイトル・テーマ・意図・演出内容		
	13	企画書の立て方2	ペライチ企画タイトル・テーマ・意図・演出内容		
	14	期末試験			
	15	振り返り			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	音響・舞台・照明総合実習Ⅱ		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科2年		
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	<p>イベントを企画運営するために必要なテーマの立て方やアイデアの出し方、プレスト、大量のアイデアを分類する。アクティブラーニングを主体とした学びを重視する。また実際にアイデアを出し校内ライブなどで反映、どのような効果があったかをみる。また将来の目標設定を個々で設定できるようにする。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	PC音響機材照明機材ペンノートタブレットPC映像配信機材一式				
授業外学習の方法	プリントによる学習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	16	後期個人目標設定	修了・卒業公演までに自分が何をやるべきか目標設定PC・ノート・ペン		
	17	イベント業界に必要な映像知識	映像の最低限知らなくては行けない知識		
	18	イベント企画を立てる	郡山に貢献できる音楽とは何か追及するPC・ノート・ペ		
	19	プレゼンの仕方	プレゼンとは何のためにするかを学ぶPC・ノート・ペン		
	20	課題プレゼン	プレゼンPC・ノート・ペン・プロジェクタ		
	21	企画内容の実現化	企画内容が実際にできるものなのかを検討・レポート		
	22	予算の立て方	レポートをもとに予算とはどのように考えられているのかを学ぶPC・ノート・ペン		
	23	校内ライブ・イベントライブの準備①	プレゼンPC・ノート・ペン・プロジェクター		
	24	校内ライブ・イベントライブの準備②	プレゼンPC・ノート・ペン・プロジェクタ		
	25	イベント考察	ペン・付箋・ノート		
	26	業界知識	イベント業に必要な知識の補足		
	27	チーム形成1	コミュニケーションの取り方セクション・プレゼンチーム作り		
	28	チーム形成2	コミュニケーションの取り方セクション・プレゼンチーム作り		
29	期末試験				
30	振り返り				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	音響実習Ⅱ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科2年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	90時間	単位数	3単位 週時間数 3時間
学習到達目標	様々な音響機器の操作および音響システム設計 表現手段としての音響機器操作		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	ProTools、モニタースピーカーシステム一式、PAシステム一式		
授業外学習の方法	多チャンネルミキシングの音楽、TV番組、映画の鑑賞		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画前期	1	音響技術者の音の聴き方(PAと録音の違い)	PAスピーカー、モニタースピーカー
	2	機材セッティング、エフェクター操作	調整卓、周辺機器
	3	アナログミキサーの操作	調整卓(アナログ)
	4	デジタルミキサーの操作	調整卓(デジタル)
	5	EQの操作	調整卓(デジタル)、ProTools
	6	エフェクターの操作	〃
	7	PAシステムの調整	PAシステム一式
	8	PAシステム総合操作	〃
	9	PAシステム総合操作	〃
	10	前期期末試験	
	11	マルチトラックミキシング素材入れ込み	ProTools
	12	マルチトラックミキシング(音量)	〃
	13	ヒヤリングのフィードバック	モニタースピーカー、CD、マイク、マイクケーブル、スタンド、PAシステム
	14	本試験	モニタースピーカー、CD、マイク、マイクケーブル、スタンド、PAシステム
	15	前期の振り返り	
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	音響実習Ⅱ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科2年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	90時間	単位数	3単位 週時間数 3時間
学習到達目標	様々な音響機器の操作および音響システム設計 表現手段としての音響機器操作		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	ProTools、モニタースピーカーシステム一式、PAシステム一式		
授業外学習の方法	多チャンネルミキシングの音楽、TV番組、映画の鑑賞		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	16	マルチトラック荒ミキシング、試聴	ProTools
	17	マルチトラックミキシング(HPF)	〃
	18	マルチトラックミキシング(音量)	〃
	19	マルチトラックミキシング(EQ)	〃
	20	マルチトラックミキシング(エフェクター)	〃
	21	マルチトラックミキシング(ミックスダウン)	〃
	22	マルチトラックミキシング(ミックスダウン)	〃
	23	マルチトラックミキシング(修正)	〃
	24	マルチトラックミキシング(マスタリング)	〃
	25	後期作品提出(CD提出)	
	26	作品ヒヤリング	みんなで聞いて評価共有
	27	ミキシング成果発表1	CD再生装置一式
	28	ミキシング成果発表2	CD再生装置一式
	29	期末試験	CD再生機材一式
30	振り返り	評価シート提出	
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	録音実習Ⅱ		指導担当者名	安藤圭太	
実務経験	有	レコーディングスタジオ勤務、レコーディング・ミックス業務に15年間以上従事した経歴			
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科2年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	ProToolsを用いた録音方法の基礎を習得する				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	ProTools				
授業外学習の方法					
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画前期	1	面談			
	2	マイクの種類	ダイナミックマイクの使い方を知る		
	3	マイクの種類	コンデンサーマイクの使い方を知る		
	4	ドラム録音	マイキングを知る		
	5	ドラム録音	音の加工仕方を身に付ける		
	6	ギターベース録音	マイキングを知る		
	7	ギターベース録音	音の加工仕方を身に付ける		
	8	カホン録音	マイキングを知る		
	9	カホン録音	音の加工仕方を身に付ける		
	10	ピアノ録音	マイキングを知る		
	11	ピアノ録音	音の加工仕方を身に付ける		
	12	テスト対策	前期の復習		
	13	テスト対策	レファレンスの作品と比較		
	14	前期期末試験	録音操作を行い、ポイントを押さえているかで評価		
	15	試験内容をみんなとヒヤリング			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	録音実習Ⅱ		指導担当者名	安藤圭太	
実務経験	有	レコーディングスタジオ勤務、レコーディング・ミックス業務に15年間以上従事した経歴			
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科2年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	ProToolsを用いた録音方法の基礎を習得する				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	ProTools				
授業外学習の方法					
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画後期	16	前期の振替			
	17	カラオケにボーカル録音1	ボーカルの録音の仕方をしる		
	18	カラオケにボーカル録音2	ボーカルの音色調整とコンプをかけてみる		
	19	ピアノにボーカル録音1	ピアノの録音の仕方をしる		
	20	ピアノにボーカル録音2	ピアノの音色調整とコンプをかけてみる		
	21	3ピースバンド録音の企画立案	曲目決め、スケジュール調整		
	22	3ピースバンド録音1	ドラム録音		
	23	3ピースバンド録音2	ベース録音		
	24	3ピースバンド録音3	ギター録音		
	25	仮ミックス	ミキシングの仕方をしる		
	26	ボーカル録音	バンドボーカルの録音の仕方をしる		
	27	全体ミックス1	バンドミックスの仕方をしる1		
	28	全体ミックス2	バンドミックスの仕方をしる2		
	29	前期期末試験	録音段取りをテストする		
30	仕上げ作品リスニング				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	実演実習Ⅱ		指導担当者名	株式会社リヴァーズウェイ	
実務経験	有	ライブハウス、楽器販売を行っている株式会社リヴァーズウェイとの契約により、実務経験が5年以上の社員が担当			
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科2年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	全ての楽器に必要なリズムとその感覚を学習する。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	楽器				
授業外学習の方法	楽譜と楽器を使用しての学習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画前期	1	セッションのルールと知識	授業のオリエンテーション		
	2	12小節のブルース進行	キーを変えコードと小説の感覚も鍛える。		
	3	8ビート、16ビート。	リズムを変えて。ポップスやロックも取り入れる。		
	4	裏のリズム。ディスコビート。	IDM系リズムと曲の学習。		
	5	12/8ビート。シャッフル。	シャッフルの感覚と曲の学習		
	6	ビートシフト。感覚トレーニング。	グループを出すための感覚の習得。		
	7	バウンス。ファンク。	スタンダードや流行の曲を取り入れてバウンスを学習。		
	8	ハーフタイムシャッフル。	ゆっくりから高速まで体と感覚を一致させる事を目標に。		
	9	ボサノバ。レゲエ。	ポップスやロックに定番アレンジのリズム学習。		
	10	サンバ。	速い体の動きを学習する。裏と1、4拍を感じる。		
	11	ジャズ2ビート、4ビート。	ジャズスタンダードを学習する。		
	12	奇数ビート1	奇数曲と感覚を学習する。		
	13	奇数ビート2	奇数曲と感覚を学習する。		
	14	期末試験			
	15	振り返り			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	実演実習Ⅱ		指導担当者名	株式会社リヴァーズウェイ	
実務経験	有	ライブハウス、楽器販売を行っている株式会社リヴァーズウェイとの契約により、実務経験が5年以上の社員が担当			
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科2年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	全ての楽器に必要なリズムとその感覚を学習する。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	楽器				
授業外学習の方法	楽譜と楽器を使用しての学習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画後期	16	難易度の高い曲の完成。	課題曲の分析		
	17	難易度の高い曲の完成。	リズムを覚える		
	18	難易度の高い曲の完成。	コード進行を覚える		
	19	難易度の高い曲の完成。	メロディを覚える		
	20	難易度の高い曲の完成。	アドリブをみんなで回す		
	21	難易度の高い曲の完成。	合奏		
	22	難易度の高い曲の完成。	進行を覚える		
	23	難易度の高い曲の完成。	リズムを覚える		
	24	難易度の高い曲の完成。	コード進行を覚える		
	25	難易度の高い曲の完成。	メロディを覚える		
	26	難易度の高い曲の完成。	アドリブをみんなで回す		
	27	難易度の高い曲の完成。	合奏		
	28	難易度の高い曲の完成。	合奏		
29	期末試験				
30	振り返り				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	ストリーミング実習			指導担当者名	齋藤祐輝
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科2年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	実習を通して動画を撮影・編集を学び、さらには配信の現場を自分たちで作れるようになる。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	パソコン,カメラ,ATEM				
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画前期	1	配信とは	配信とは？(配信の仕組み、必要な機材の説明)		
	2	配信の基本セッティング1	カメラの設定		
	3	配信の基本セッティング2	変換器の設定		
	4	配信の基本セッティング3	スイッチャーの設定		
	5	OBSの設定	基本的な使い方を学ぶ		
	6	音楽配信のOBSの設定	音楽配信のためのOBSの設定を作成してみる		
	7	音響器材の基礎	マイク		
	8	音響器材の基礎	スピーカー		
	9	音響器材の基礎	みきささー		
	10	ゲーム大会の配信の基本セッティングを作ってみる	OBS設定、マイクの設定を習得する		
	11	ゲーム大会の配信の基本セッティングを作ってみる	OBS設定、マイクの設定を習得する		
	12	ゲーム大会の配信の基本セッティングを作ってみる	OBS設定、マイクの設定を習得する		
	13	ゲーム大会の配信の基本セッティングを作ってみる	OBS設定、マイクの設定を習得する		
	14	期末試験	実技試験:配信オペレーション		
	15	振り返り	フィードバック、今後の改善点		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	ストリーミング実習	指導担当者名	齋藤祐輝
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科2年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	90時間	単位数	3単位 週時間数 3時間
学習到達目標	実習を通して動画を撮影・編集を学び、さらには配信の現場を自分たちで作れるようになる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	パソコン,カメラ,ATEM		
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画後期	16	前期振り返り	
	17	配信のためのプランニング	配信時間を考える
	18	タイムコード	音声と映像を合わせる
	19	配信企画	配信の企画を立てる
	20	配信必要な素材	配信するときに画面に必要な情報を一覧にまとめる
	21	良い音で配信するためには?	配信での良い音する方法
	22	音楽以外の配信プラン	朗読劇での配信
	23	音楽以外の配信プラン	e-Sportsでの配信
	24	音楽以外の配信プラン	演劇での配信
	25	卒業ライブで配信するたのプラン	配信プランを立ててみる
	26	卒業ライブで配信するたのプラン	実際に配信をしてみる
	27	卒業ライブで配信するたのプラン	弾き語りの配信をしてみる
	28	卒業ライブで配信するたのプラン	弾き語りの配信をしてみる
	29	期末試験	
30	振り返り		
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	卒業制作実習	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	後期	対象学科学年	全学科 2年生
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	180時間	単位数	6単位 週時間数
学習到達目標	・2年間の集大成として学んだこと活かしデジタルコンテンツを制作し、プレゼンテーションをする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	デジタルコンテンツ制作に必要な物を各自用意。		
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	ライブ企画制作1	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる
	2	ライブ企画制作2	個別添削を行いながら制作を進めていく
	3	ライブ企画制作3	中間発表を行い、プレゼンテーション準備と展示企画についても
	4		可視化していく
	5	学科内シミュレーションライブ	学科内でプレゼンテーションを実施
	6		学科担任、学科非常勤講師、学科内学生全てでプレゼンテーションを聞く
	7		・制作のポイント・展示計画・プレゼン能力・資料の見やすさなど
	8	発表を受けての修正と展示準備	各教室での展示計画と準備。
	9		また、プレゼンテーションで受けた指摘の修正と追加制作
	10	卒業・修了制作展	展示計画の基づき展示をし、外部の一般来場者を入れての作品発表を実施
	11		・学科内の作品の見どころの紹介・一般来場者の対応
	12		*学科内シフトにより登校
	13	模擬試験	模擬試験
	14	期末試験	
	15	振り返り	
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			